

## 4 文化・スポーツ

### 基本施策 14 スポーツ

#### ◆現況と課題

- 国が令和4(2022)年3月に策定した「第3期スポーツ基本計画」では、スポーツを「つくる/はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」という新たな「3つの視点」がうたわれています。
- 愛知県は、平成30(2018)年3月に改訂した「いきいきあいち スポーツプラン～豊かなスポーツライフの創造～」において、アジア・アジアパラ競技大会を活かし、すべての人がともにスポーツを楽しみ、スポーツの力により、豊かで活力ある愛知の実現を目指すこととしています。
- 近年、人口減少・少子高齢化の進行を背景に、スポーツ活動においても指導者を含めた担い手不足や後継者不足が課題となっています。また、SDGsを通して、持続可能な社会を目指していくことが求められており、誰もがスポーツ活動に参加することができる環境を整備する必要があります。
- 健康寿命の延伸にも結びつくよう、より多くの市民が気軽にスポーツ活動に取り組める環境を整えるとともに、市民がスポーツ施設を安全・安心に利用することができるよう、既存施設・設備の計画的な改修等を推進する必要があります。
- 児童生徒の部活動の機会を適切に確保する観点から、学校部活動の地域連携・地域移行を進める必要があります。

#### 【関連計画等】

- ・小牧市教育振興基本計画(平成29(2017)年度～令和8(2026)年度)
- ・小牧市教育大綱(平成29(2017)年度～令和8(2026)年度)

#### ◆基本施策の目的及び状態指標

##### 【基本施策の目的(目指すまちの姿)】

市民の誰もが気軽にスポーツ活動に取り組むことができる環境を整備することにより、心身ともに健康で文化的な生活が送れるまちにします。

##### 【まちの状態を表す指標】

| 指標名                                  | 基準値              | 目指す方向 |
|--------------------------------------|------------------|-------|
| 健康づくりのためにスポーツに取り組む必要があると考えている成人市民の割合 | 86.7%<br>(令和3年度) | ↗     |

#### ◆基本施策の体系

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 基本施策 | スポーツ   |  |
|      | 展開方向 1 | スポーツを通して健康で活力ある生活を送ることが<br>できる環境をつくります |
|      | 展開方向 2 | 市民がスポーツ活動に快適に取り組める環境を整備<br>します         |

## 第Ⅳ章 分野別計画編

### ◆展開方向1：スポーツを通して健康で活力ある生活を送ることができる環境をつくります

#### 【目標】

○スポーツを通して、心身ともに健康な暮らしを送ることができる環境を整えます。

#### 【手段】

- 様々な人がスポーツに関わる機会を創出するため、スポーツ大会やスポーツ教室を開催します。
- 民間スポーツ指導者を育成し、指導者バンク\*などをつくることにより、地域スポーツの持続的な発展に取り組みます。
- 市民のスポーツへの関心を高め、スポーツに取り組むきっかけとするため、関連事業の実施などを通してアジア競技大会を周知します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名                                       | 基準値              | 目指す方向 |
|---|------------------|-------|
| スポーツ教室などへの参加者数                            | 2,838人           | ↗     |
| スポーツ指導者登録者数                               | 278人             | ↗     |
| 令和8(2026)年に愛知県でアジア競技大会が開催されることを知っている市民の割合 | 16.4%<br>(令和3年度) | ↗     |

### ◆展開方向2：市民がスポーツ活動に快適に取り組める環境を整備します

#### 【目標】

○スポーツに対する市民の多様なニーズに対応した、安全・安心なスポーツ施設を整備します。

#### 【手段】

- 日常の保守点検や定期点検を適切に実施するとともに、小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、施設の老朽化などに対応した修繕等を計画的に推進します。
- 施設の利便性が向上するよう、機能の充実についても検討を行います。
- 利用者にとって更に使いやすい施設予約システム\*となるよう、施設予約システムの機能(オンライン予約、オンライン抽選、キャッシュレス決済)を改善し、スポーツ施設の利用者数の増加につなげます。
- 抽選会後の空き枠については、個人で利用者登録をすることにより施設の利用が可能になったことを周知することで、個人利用を促進します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名                             | 基準値      | 目指す方向 |
|---------------------------------|----------|-------|
| 市が管理するスポーツ施設における維持管理上の不備による事故件数 | 0件       | →     |
| 市が管理するスポーツ施設の年間利用者数             | 469,015人 | ↗     |



## 基本施策 15 文化・芸術

### ◆現況と課題

- 国が令和5(2023)年3月に策定した「文化芸術推進基本計画(第2期)」では、文化芸術に係る中長期目標の1つとして、「文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、すべての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていることを目指す」ことが掲げられています。
- 近年、人口減少・少子高齢化の進行を背景に、文化芸術活動の面においても、指導者を含めた担い手不足や後継者不足が課題となっています。また、SDGsを通して、持続可能な社会を目指していくことが求められており、誰もが等しく文化芸術に親しむことのできる環境を整備する必要があります。
- 本市の文化の殿堂である市民会館をはじめ、文化芸術に係る活動の拠点である公共施設を市民が安全・安心に利用することができるよう、今後も引き続き、既存施設・設備の計画的な改修等を推進する必要があります。

### 【関連計画等】

- ・小牧市教育振興基本計画(平成29(2017)年度～令和8(2026)年度)
- ・小牧市教育大綱(平成29(2017)年度～令和8(2026)年度)

### ◆基本施策の目的及び状態指標

#### 【基本施策の目的(目指すまちの姿)】

市民の誰もが心豊かな人生を送ることができるよう、日頃から文化芸術に親しむことができるまちにします。

#### 【まちの状態を表す指標】

| 指標名                   | 基準値              | 目指す方向 |
|-----------------------|------------------|-------|
| 日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合 | 51.8%<br>(令和3年度) | ↗     |

### ◆基本施策の体系

|      |        |                                     |
|------|--------|-------------------------------------|
| 基本施策 | 文化・芸術  |                                     |
|      | 展開方向 1 | 誰もが文化・芸術に親しみ心豊かな生活を送ることのできる環境をつくります |
|      | 展開方向 2 | 文化・芸術の推進体制の充実を図ります                  |

## 第Ⅳ章 分野別計画編

### ◆展開方向1：誰もが文化・芸術に親しみ心豊かな生活を送ることのできる環境をつくります

#### 【目標】

○誰もが等しく文化・芸術に親しむことができ、心豊かな生活を送ることができる環境を整えます。

#### 【手段】

- 幅広い分野を対象として、質の高い公演などを開催し、充実した鑑賞機会を提供します。
- 小牧の文化を担う次の世代を育成するため、(一財)こまき市民文化財団と連携し、伝統文化や生活文化などにふれる機会を提供します。
- こどもたちが文化・芸術に興味を持ち、ふれ、豊かな人間性を育むことができるように、こども向けの鑑賞事業を開催するとともに、小中学校のカリキュラム等も踏まえながら、本格的な鑑賞機会を提供し、生涯にわたって文化・芸術に親しめる環境をつくります。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名                            | 基準値     | 目指す方向 |
|--------------------------------|---------|-------|
| 市民会館での公演などへの参加者数               | 31,711人 | ↗     |
| (一財)こまき市民文化財団などが主催するイベントへの来場者数 | 30,029人 | ↗     |
| こども又は親子で参加する文化体験教室などへの参加者数     | 1,006人  | ↗     |

### ◆展開方向2：文化・芸術の推進体制の充実を図ります

#### 【目標】

○市民や文化・芸術団体と連携し、文化・芸術の推進体制を強化します。

#### 【手段】

- 市及び教育委員会の後援などにより、文化・芸術団体の活動を支援します。
- 相談体制の充実により、文化・芸術団体の活動の活性化に取り組みます。
- 日常の保守点検及び定期点検に加え、小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、施設の老朽化などに対応した修繕等を計画的に推進します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名                     | 基準値     | 目指す方向 |
|-------------------------|---------|-------|
| 小牧市内を活動拠点とする文化・芸術団体数    | 273団体   | ↗     |
| 支援を行った文化団体が実施する事業への参加者数 | 45,511人 | ↗     |



## 基本施策 16 生涯学習

### ◆現況と課題

- 中央教育審議会\*（令和5(2023)年3月8日答申）では、人生100年時代を見据え、すべての人のウェルビーイング\*の実現のためにも、生涯学び、活躍できる環境を整備することの必要性がうたわれています。
- 近年、人口減少・少子高齢化の進行を背景に、生涯学習においても、指導者を含めた担い手不足や後継者不足が課題となっています。
- 今後も引き続き、市民が生涯学習に係る活動の拠点である公共施設を安全・安心に利用することができるよう、既存施設・設備の計画的な改修等を推進する必要があります。
- 居心地の良い空間（サードプレイス）として、あらゆる世代の市民が集う滞在型の小牧市中央図書館が令和3(2021)年3月に開館し、それに伴い図書館資料の貸出利用者数や貸出点数も増加しています、今後も引き続き、この傾向を維持できるよう、来館者や貸出利用者数を増やすための取組を推進する必要があります。

### 【関連計画等】

- ・小牧市教育振興基本計画（平成29(2017)年度～令和8(2026)年度）
- ・小牧市教育大綱（平成29(2017)年度～令和8(2026)年度）
- ・小牧市図書館サービス計画（令和2(2020)年度～令和6(2024)年度）

### ◆基本施策の目的及び状態指標

#### 【基本施策の目的(目指すまちの姿)】

豊かな人生を支える、生涯を通じて学ぶことができるまちにします。

#### 【まちの状態を表す指標】

| 指標名                 | 基準値              | 目指す方向 |
|---------------------|------------------|-------|
| 生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合 | 28.2%<br>(令和3年度) | ↗     |

### ◆基本施策の体系

| 基本施策 | 生涯学習   |
|------|--|
|      | <ul style="list-style-type: none"><li>展開方向 1 生涯を通して学ぶことができ、学んだ成果を地域活動などに活かし、生きがいを持って生活を送ることができる環境をつくります</li><li>展開方向 2 市民が生涯学習に快適に取り組める施設を整備します</li><li>展開方向 3 図書館サービスを充実します</li></ul> |



## 第Ⅳ章 分野別計画編

### ◆展開方向1：生涯を通して学ぶことができ、学んだ成果を地域活動などに活かし、生きがいを持って生活を送ることのできる環境をつくります

#### 【目標】

○生涯学習に取り組む市民を増やし、地域活動などへ還元しやすい環境をつくります。

#### 【手段】

- 様々な媒体を活用して生涯学習に関する情報を提供するとともに、学習の目的などに応じてきめ細かな案内等ができるよう相談員等の資質向上に取り組めます。
- 市民のニーズに対応した多様な学習講座や社会的課題及び地域課題に対応した学びの機会を提供します。
- 生涯学習人材育成講座などを開催し、地域における生涯学習活動を支える人材を育成します。
- 地域協議会、こまき市民交流テラス「ワクティブこまき」と連携して、学びを通じた市民交流を促進します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名                  | 基準値             | 目指す方向 |
|----------------------|-----------------|-------|
| 市民講座受講者数             | 1,629人          | ↗     |
| 生涯学習の支援や指導に関わった市民の割合 | 5.6%<br>(令和3年度) | ↗     |
| 生涯学習に関する相談件数         | 257件            | ↗     |

### ◆展開方向2：市民が生涯学習に快適に取り組める施設を整備します

#### 【目標】

○施設機能の充実や市民ニーズに対応することで、施設利用率を高めます。

#### 【手段】

- 日常の保守点検及び定期点検に加え、小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、施設の老朽化などに対応した修繕等を計画的に推進します。
- 施設の利便性が向上するよう、機能の充実についても検討を行います。
- 利用者にとって更に使いやすい施設予約システムとなるよう、施設予約システムの機能(オンライン予約、オンライン抽選、キャッシュレス決済)を改善し、生涯学習施設の利用者数の増加につなげます。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名    | 基準値   | 目指す方向 |
|--------|-------|-------|
| 公民館利用率 | 38.5% | ↗     |



### ◆展開方向3：図書館サービスを充実します

#### 【目標】

○あらゆる世代の市民の図書館利用を促進します。

#### 【手段】

- 小牧の歴史・文化・産業に関する郷土資料などを収集するとともに、市民ニーズやこどもの発達段階にあわせた選書により蔵書の充実に取り組みます。
- 市民の日常生活や教養、時事に関するテーマの企画コーナーを設置し、関連本を紹介します。
- 保育園や小中学校などへ希望する本を配送する「施設配本サービス」を継続的に実施します。
- 市民の生涯学習や研究、地域の課題に対して資料や情報を提供するレファレンスサービス\*を充実させるとともに、利用者が自らレファレンス事例を検索できるようレファレンス事例の蓄積を進めます。
- 図書館主催のイベントに加え、庁内各部署や市民活動団体などとの連携により、多くの市民が参加できるイベントの充実に取り組みます。
- 図書館でのおはなし会などを行うボランティアを増員するための養成講座や、ボランティアのスキルアップを目的とした講座を実施します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名        | 基準値        | 目指す方向 |
|------------|------------|-------|
| 貸出利用者数     | 325,559人   | ↗     |
| 貸出点数       | 1,276,182点 | ↗     |
| レファレンス処理件数 | 14,474件    | ↗     |

## 第Ⅳ章 分野別計画編

### 基本施策17 男女共同参画

#### ◆現況と課題

- 本市では、男女が性別に関わらず対等な立場で、自らの個性を發揮し、多様な生き方や価値観を認め合える社会を実現するために、平成15(2003)年4月に「小牧市男女共同参画条例」を施行した後、令和4(2022)年3月には「第4次小牧市男女共同参画基本計画 ハーモニーⅣ」を策定し、同計画に基づく取組を全庁的に推進しています。
- 男女間の賃金格差や根強い男性中心型の労働慣行、男性の家事・育児・介護にかける時間の少なさなどにより、女性は「結婚や出産を機に退職し、こどもがある程度大きくなったら家事・育児などを担いながら非正規雇用で働く」以外のキャリアプランを描きづらい現状です。多様な選択肢からそれぞれに合った生き方を選択できるよう、社会全体で働き方や家事などへの向き合い方の見直しが必要です。
- 仕事と育児・介護等の両立などワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現に向けては、保育サービスや介護サービスなどの量的・質的な拡充を進め、安心して利用できる環境整備に努める必要があります。
- 本市の審議会等委員の女性比率は、2割台にとどまっていることから、様々な場で女性の登用を進めるとともに、女性の手を挙げづらくさせている要因を見極め、対応することが必要です。
- 小中学生における家事分担の理想は、「食事を作ること」は母親が担当、「お金を稼ぐこと」は父親が担当という回答がそれぞれ7割以上を占めています。また、中学生アンケートでは、性別を理由に言動を注意されたことのある女子の割合が4割を超えています。このような実態を踏まえ、学校において、人権やジェンダー平等\*に関する教育を推進するとともに、教員や保護者などに対して、固定的な性別役割分担意識の解消に結びつくような働きかけを検討する必要があります。
- 誰もが自らのSOGI\*を尊重され、異なる価値観を互いに認め合い、自分らしく生きることができるよう、多様な性を尊重する社会の推進に努める必要があります。

#### 【関連計画等】

- ・小牧市女性活躍推進計画(令和4(2022)年度~令和8(2026)年度)
- ・第4次小牧市男女共同参画基本計画 ハーモニーⅣ(令和4(2022)年度~令和8(2026)年度)

#### ◆基本施策の目的及び状態指標

#### 【基本施策の目的(目指すまちの姿)】

固定的な性別役割分担意識や慣習を解消し、男女がともに対等な立場で、自らの個性や能力を發揮し、多様な生き方や考え方、価値観を認め合うまちにします。

#### 【まちの状態を表す指標】

| 指標名                         | 基準値              | 目指す方向 |
|-----------------------------|------------------|-------|
| 働いている女性(20~50歳代)の割合         | 74.0%<br>(令和3年度) | ↗     |
| 固定的な性別役割分担について見直すべきと思う男性の割合 | 80.2%<br>(令和3年度) | ↗     |



## ◆基本施策の体系

|      |        |        |                              |
|------|--------|--------|------------------------------|
| 基本施策 | 男女共同参画 | 展開方向 1 | あらゆる分野における女性の活躍を推進します        |
|      |        | 展開方向 2 | 男女共同参画社会の形成に向けた意識改革や教育を推進します |

## ◆展開方向1：あらゆる分野における女性の活躍を推進します

## 【目標】

○女性の社会進出を促進し、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図ることで、女性が活躍できる環境を整えます。

## 【手段】

- 政策・方針決定の場における男女共同参画を推進するため、本市審議会などへの女性の登用率を高めます。
- 女性の活躍促進を実現するために積極的に取り組んでいる企業をPRし、制度を広く周知します。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名              | 基準値   | 目指す方向 |
|------------------|-------|-------|
| 審議会などへの女性委員の登用率  | 24.7% | ↗     |
| あいち女性輝きカンパニーの認証数 | 73件   | ↗     |

## ◆展開方向2：男女共同参画社会の形成に向けた意識改革や教育を推進します

## 【目標】

○男女共同参画社会の形成に向けて、固定的な性別役割分担意識を解消します。

## 【手段】

- 多くの市民が参加することで男女共同参画の意識啓発につなげるため、幅広い世代が参加できる講座を企画します。
- こどもの頃から固定的な性別役割分担意識や慣習を解消できるよう、学校において人権やジェンダー平等に関する教育を推進するための講座を開催します。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名  | 基準値 | 目指す方向 |
|--|-----|-------|
| 男女共同参画に関する講座の受講後アンケートで「男女共同参画について理解が深まった」と回答した受講者の割合 | —   | ↗     |
| 男女共同参画に関する講座を受講した中学生のうち、受講後に男女共同参画に関する意識が変わった生徒の割合   | —   | ↗     |

## 第Ⅳ章 分野別計画編

### 基本施策 18 多文化共生

#### ◆現況と課題

- 総務省の統計「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」によると、令和4(2022)年1月1日現在、日本全体の外国人人口は約270万人で、全人口の約2.1%を占めています。また、国立社会保障・人口問題研究所\*は、令和52(2070)年の外国人人口が、全人口の約1割を占めるという推計を示しており、今後も人口減少による人材不足を背景に、全国的に外国人材の必要性が高まり、増加していくことが予測されています。
- 本市の外国人市民の住民登録者数は、令和5(2023)年4月1日現在、1万424人で、全市民の約6.9%を占めています。また、全年齢に対する50歳未満の人口割合は、日本人市民の約52.6%に対し、外国人市民は約82.1%となっており、若い世代の外国人市民が多く、現状は、外国人が地域経済を支える重要な担い手となっています。
- 近年、定住化傾向にある外国人市民について、今後は高齢化の進展が見込まれます。そのため、将来的には介護や福祉に対する備えの必要性が増していくと考えられます。
- 本市では、外国人市民の増加を踏まえ、外国人相談窓口の設置をはじめ、タブレットを利用した通訳サービス、多言語の情報誌や市ホームページ、庁内文書の翻訳など、様々な手段で相談や情報提供を行っています。今後は、増加傾向にある定住外国人を対象に、出産、子育て、教育、就労、保健、介護など、ライフサイクルに応じた生活支援の多言語対応(相談や情報提供)を充実させる必要があります。
- 小牧市国際交流協会では、日本人市民と外国人市民の相互理解や交流に関する事業を実施しています。今般のコロナ禍では、交流の機会が減少し、イベントの参加者数が伸び悩んでいますが、引き続き、市民参加の国際交流に取り組み、多文化共生を推進していく必要があります。
- 日本語教育の推進に関する法律の施行に伴い、国や県では、日本語教育の充実のため、体制づくりや人材の確保を進めています。本市では、小牧市国際交流協会や市民活動団体が実施する日本語教室を支援していますが、外国人市民の自立、地域社会への参画に向け、より学びやすい環境を整えていく必要があります。

#### 【関連計画等】

- ・小牧市多文化共生推進プラン【第2次プラン】(令和2(2020)年度～令和9(2027)年度)



## ◆基本施策の目的及び状態指標

## 【基本施策の目的(目指すまちの姿)】

日本人市民と外国人市民が、お互いに理解し、差別なく支え合う、笑顔と活力に満ちた、多文化共生のまちにします。

## 【まちの状態を表す指標】

| 指標名                                | 基準値                   | 目指す方向 |
|------------------------------------|-----------------------|-------|
| 小牧市多文化共生推進プランの達成率                  | 64.9%                 | ↗     |
| 外国人市民との共生(仲良く暮らしていくこと)が必要と感じる市民の割合 | —                     | ↗     |
| 外国人市民の登録者数                         | 10,424人<br>(令和5年4月現在) | —     |

## ◆基本施策の体系

|      |       |        |   |
|------|-------|--------|---|
| 基本施策 | 多文化共生 | 展開方向 1 | 外国人市民が住みやすい環境を整えます                      |
|      |       | 展開方向 2 | 日本人市民と外国人市民が互いの「ちがいを」学び交流し、協働する機会を増やします |

## ◆展開方向1：外国人市民が住みやすい環境を整えます

## 【目標】

○外国人市民への適切な情報提供や日本語を学ぶ機会を創出することで、外国人市民が住みやすい環境を整えます。

## 【手段】

- ライフサイクルに応じて、出産・子育て・教育・就労・保健・介護の分野を中心に、外国人市民の生活に必要な情報を多言語で提供します。
- SNSやインターネット等のICTを活用した情報提供を推進します。
- ICTの活用も含めて、外国人市民の相談体制を強化します。
- 小牧市国際交流協会、企業、NPOなどと連携し、日本語教育環境の整備を進めます。

## 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名                            | 基準値     | 目指す方向 |
|--------------------------------|---------|-------|
| 外国人市民向けホームページ等の年間アクセス数         | 7,267件  | ↗     |
| 外国人相談件数                        | 12,840件 | ↗     |
| 小牧市国際交流協会が実施する大人向け日本語教室の年間受講者数 | 301人    | ↗     |

## 第Ⅳ章 分野別計画編

### ◆展開方向2：日本人市民と外国人市民が互いの「ちがい」を学び交流し、協働する機会を増やします

#### 【目標】

○日本人市民と外国人市民の交流を促進し、お互いが地域で暮らしやすい環境を整えます。

#### 【手段】

○小牧市国際交流協会、企業、NPO、地域コミュニティ組織などと連携し、日本人市民と外国人市民が交流する事業の充実に取り組みます。

○小牧市国際交流協会と連携し、多文化共生を理解する講座の開催や啓発活動の取組を推進します。

○市民、地域、企業、行政が連携・協力し、小牧市多文化共生推進プランを推進します。

○災害時外国人支援ボランティアを育成・確保するとともに、地域の防災訓練への外国人市民の参加を支援します。

#### 【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

| 指標名  | 基準値    | 目指す方向 |
|--|--------|-------|
| 市や小牧市国際交流協会が実施する日本人市民と外国人市民が交流する事業などへの参加者数 | 1,281人 | ↗     |
| 災害時外国人支援ボランティアの登録者数                        | 62人    | ↗     |

